

会 議 録

会議の名称	平成25年度第2回茨木市環境審議会
開催日時	平成26年2月25日（火） 10時30分 開会 ・ 12時00分 閉会
開催場所	茨木市役所 南館3階 防災会議室
会 長	圓入 克介
出席者	石山 郁慧、今堀 洋子、圓入 克介、久米 辰雄、玉井 昌宏 天保 好博、箱田 正輝、藤田 紫、三輪 信哉、村瀬 径介 山田 俊一 (11人)
欠席者	武蔵野 實 (1人)
傍聴人	2人
事務局	西林産業環境部長、大神産業環境部次長、松本環境政策課長 中村環境事業課長、神谷環境保全課長、井澤環境政策課政策係長 江濱職員、 中川主任研究員、大友研究員（株）地域計画建築研究所 大阪事務所 (9人)
議題（案件）	1 議題 (1) （仮称）第2次茨木市環境基本計画の策定について
配布資料	・ 茨木市環境審議会委員名簿 ・ 茨木市環境審議会規則 ・ 茨木市環境審議会傍聴要領 ・ 茨木市審議会等の会議の公開に関する指針 ・ 茨木市環境基本計画（平成16年3月策定）について ・ 第2次茨木市環境基本計画策定の考え方について ・ 第2次環境基本計画策定スケジュール

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	1 開会
	1 委員紹介
	1 市出席者紹介
	1 審議会会長・副会長の選任
事 務 局	第6期審議会の会長と副会長の選任を願いたい。会長・副会長の選任については、本市環境審議会規則第2条により、委員の互選により定めると規定されており、会長及び副会長の互選を願いたい。事務局としては、これまでの尽力のあった功績から、会長に圓入委員、副会長に三輪委員を考えているが、どうか。
	(「異議なし」の声あり。)
事 務 局	異議なしということで、会長には圓入委員に、副会長には、三輪委員に就任を願いたい。
	1 会長あいさつ
	1 審議会の成立の確認
会 長	本日の委員の出席状況について、事務局から報告を願いたい。
事 務 局	本日は12人の委員のうち、11人に出席いただいている。
会 長	本日は半数以上の委員が出席しているので、環境審議会規則第3条第2項により会議は成立している。
	1 地球温暖化対策推進部会について
会 長	ここで、環境審議会規則第4条第1項に基づき設置している地球温暖化対策推進部会について、事務局から説明願いたい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	地球温暖化対策推進部会は、地球温暖化対策推進に関する調査・審議等を行うため、本審議会に平成25年8月に設置をしたところであり、4名の委員で構成し、特に、本市の地球温暖化対策実行計画の進行管理を行うための管理指標等について、検討をいただいている。部会での調査・審議内容については、まとまった段階で、本審議会に報告をさせていただく。
会 長	ただいま説明のあった部会は、環境審議会規則第4条第2項で「部会は会長が指名する委員をもって組織する」と定められていることから、引き続き玉井委員、箱田委員、三輪委員、村瀬委員の4人を指名するので、よろしく願いしたい。
	1 公開・非公開の確認
会 長	議事に入る前に、本会議の公開・非公開について確認したい。審議会等の会議の公開について、事務局の説明を願いたい。
事 務 局	お手元の資料「茨木市審議会等の会議の公開に関する指針」の第2によって、原則として審議会を公開の対象となる会議と規定しており、同指針第4では公開・非公開を審議会の中で決定することとなっている。なお、環境審議会では、既に会議資料も含めて原則公開と決定しており、資料として傍聴要領のとおり定めている。
会 長	ただいまの説明のように、本審議会は原則公開としており、非公開の事案があれば、その都度、本審議会で決定していくので、よろしく願いしたい。 また、審議会の議事録についてだが、発言者の個人名は出さずに、例えばA委員、B委員とし、要点を議事録としてまとめたいと考えているが、問題ないか。
	(「異議なし」の声あり。)
会 長	異議なしということなので、そのようにさせていただく。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	1 議題
会 長	それでは議題に入る。事務局から「(仮称)第2次環境基本計画の策定について」説明をいただきたい。
事 務 局	〈1. (仮称)第2次茨木市環境基本計画の策定について〉 資料に基づき、策定の概要について説明
会 長	説明内容について、質問、意見等はないか。
C 委 員	日本全体の緑について、一昔前は森林の伐採に伴い緑が減っていたが、近年は伐採も減り、日本の歴史の中でも緑豊かな時代と言われている。しかし、茨木市の場合は他の地域と違い、これまで緑豊かであった北部地域が、新名神や彩都、安威川ダムの開発等により、緑が減っている。このため、開発後の緑をどのようにして回復していくかに、重点を置くべきではないか。
事 務 局	ご指摘のとおり、市の北部においても、新名神や彩都、安威川ダムの開発が進んでいる。これまでは、森林の伐採をはじめ、緑を一度失うとなかなか戻ってこないため、いかに緑を保全していくかという視点が強かったが、今後は、どのように緑を回復していくかという視点も考慮していく。
G 委 員	「資料1 3ページ 課題」の市民アンケート結果について、「河川・水路などの水のきれいさ」や「野鳥、昆虫、魚などの生き物との親しみやすさ」等の項目がやや満足度が低いように思われるため、これらを考慮して新計画を策定してはどうか。
事 務 局	ご指摘いただいた点を考慮し、新計画を策定する。
D 委 員	高槻市や箕面市は比較的親しみやすい川があるが、茨木市においては安威川上流を除くと親しみやすい川が無いため、このようなアンケート結果につながったのかと思う。新計画のポイント中にも「水辺」の保全、創造、活用について推進とあるが、現在、どこにどれだけの

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	活用できる水辺があり、また、どのように活用していくかといった考えはあるのか。
事 務 局	現在、市として、具体的に水辺の把握や、活用方法等の検討はしていない。しかし、個人的には茨木川の上流はとてもよい水辺であると思う。このように、市内には、とても良い水辺があるにもかかわらず、市として現状を把握しきれていないため、結果としてアピール不足につながっている。今後、現状把握を進めていくとともに、見山の郷等の山間部を中心に、水辺とふれあえる空間を創出していきたいと考えている。
E 委 員	新計画の策定にあたっては、現行計画の計画期間である10年間の進捗状況を考慮するとあるが、この間に東日本大震災や原子力発電に関する問題、最近ではPM2.5に伴う環境問題も発生しており、環境についてはとても過酷な状況とっていいと思う。これらの点を考慮すると、～心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち～という将来像では表現が緩くないか。もっと、次世代に今の環境を残していくといったメッセージ性を持たせてもよいのではないか。
事 務 局	ご指摘のとおり、東日本大震災以降、日本全国で再生可能エネルギーへの興味・関心が高まり、また、急速に普及拡大する等、社会情勢も変化している。しかし、環境という問題はとても広いが、我々一人ひとりができることというのは、そこまで、大きく変化していない。むしろ、これまで環境に興味の無かった人が興味をもち、そして行動へつなげてもらうことが大切であるといった視点から、このような将来像を設定した。
J 委 員	「資料1 6 ページ 現状」に幼児環境教育講座の実施とあるが、具体的に誰を対象としてどのような事業を実施したのか。また、先ほども意見があったように、よい環境を次世代へつなぐことが大切であると思うが、小中学生向けの講座等についてはどのように考えているのか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	<p>幼児環境教育講座は、茨木市立の幼稚園や保育所の教諭及び園児を対象に、環境教育の専門家を招いて講座を実施している。小中学生向けについては、環境教育ボランティアや出前講座等を活用して、環境教育・学習の推進に努めていく。</p>
H 委 員	<p>環境教育ボランティアは、ボランティアに登録している方の氏名や講座概要をまとめた冊子を市内の各施設に設置しており、それを見た興味のある方が市に講師派遣を依頼する事業である。私も実際に講師として参加したこともあり、茨木市は他の市町村と比べると、これらの取り組みが進んでいると思う。</p>
G 委 員	<p>環境教育の取り組みと防災という視点を考慮して、小中学校に太陽光発電システムを設置してはどうか。発電量を目で見ることができれば、省エネといった実際の行動につながりやすく、それこそ、環境意識・環境行動につながっていくと思う。また、緊急時の避難所となっている施設では、停電時の電力供給もできる。進んでいる自治体では、電気自動車を蓄電池代わりに併せて設置しており、発電していない時でも、電力を供給できるようにしている。その他、給食ごみを生ごみ処理機を使って堆肥化し、学校で使用するといった環境教育の方法もある。これらについて、全市的に取り組むといった自治体はあまり無いため、市の特色になるのではないか。</p>
事 務 局	<p>太陽光発電システムについては、蓄電池と併せて平成26年度に応急救護所を開設する4か所の学校で設置し、モニターで現在の発電量を表示する等で環境教育にもつなげていく予定である。また、応急救護所を開設する残りの学校についても、今後、耐震性等を考慮して、順次設置を検討する。生ごみの堆肥化については、既に取り組みを実施している学校もあるが、できた堆肥の使用場所がないといった問題も発生している。ただし、生ごみ処理については、先日実施した「エコグランプリいばらき」というイベントで、市民から家庭でも取り組みやすいダンボールコンポストの提案をいただいた。これらを市民に発信していきたいと考えている。その他、ヒートアイランド対策等として、市内の小中学校等で緑のカーテンに取り組んでいる。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
F 委 員	環境教育は実際に体験することが重要だと思うので、親子参加もできるこのような取り組みをぜひ発信していただきたい。また、環境教育について、市で作成している教材等（冊子、ビデオ）はあるのか。
事 務 局	環境に関する副読本を小学4・5年生向けに作成し、配布している。また、体験型学習としては、実際にごみ収集車を使用しながら、分別収集やリサイクルの重要性を伝えている。水辺のふれあい等、十分でない取り組みもあるため、環境教育ボランティアの方に協力をお願いし、小学生を対象とした環境学習プログラムを作成してもらい、学校や休暇期間中に講座を実施すること等を検討している。
会 長	議題から少し話はそれるが、今回は新計画策定の概要説明であったため、事前に資料は送付していないが、今後は事前に資料を送付する予定である。このため委員の皆様には、資料を事前に確認していただくとともに、茨木の環境の現状等についても知っていただいたうえで、ご意見等をいただきたいと思っている。
事 務 局	本市の環境の現状と取り組み内容を「いばらきの環境」にとりまとめ、毎年発行しており、引き続き委員に就任いただいている方には発行時に送付している。その他の委員の方については、後日送付させていただく。
会 長	環境の課題のひとつにごみ問題がある。茨木は他の市町村に比べて高性能のごみ処理施設を有しており、分別方法が他市と異なる等、茨木市特有の現状もある。これら環境の現状を把握するために、場合によっては審議会として施設見学の実施を検討する等、茨木の現状を知ったうえでよりよい計画を策定できるよう議論したいと考えているので、委員の皆様にはぜひご協力をいただきたい。
D 委 員	大気や水環境といった数値目標を設定しやすい項目もあるが、生物多様性やヒートアイランド等、数値化が難しい項目もある。しかし、計画策定には現状把握が必要であると思われるが、これらについて数値化した指標はあるのか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	生物多様性やヒートアイランドについては、数値化した指標は把握していない。今後、どのような指標が適切かについて、検討する。
B 委 員	新計画では、数値目標を設定するのか。
事 務 局	地球温暖化やごみの分野については、それぞれ個別の計画があるため、そちらで数値目標を設定していく。その他については、活動指標を設定する等で進捗管理に努めていく。
B 委 員	数値目標を設定するのであれば、PDCAサイクル等、推進体制や進捗管理の方法についても記載してほしい。 また、新名神のインターチェンジが開通することで、市内への自動車流入量が増加する等、茨木の大規模プロジェクトは環境負荷が大きいと思うので、これらをしっかりと考慮して新計画を策定してほしい。 さらに、「資料2 別紙」にもあるように、新計画策定にあたって、他の計画と統廃合する項目もあるかと思う。確かに、他計画と調整し、重複する項目を避ける等によってスッキリとした計画になるかと思うが、環境と防災等、併せると相乗効果を期待できる項目もあるため、無理に環境に関する計画としてスッキリさせるのではなく、環境を越えた総合的な視点が必要である。 また環境教育・学習が中心となるとのことだが、「資料2 別紙」の新計画において、環境意識・環境教育・環境行動の面積が小さくなっている印象を受けるので、書き方を見直してはどうか。
事 務 局	ご指摘いただいた点を考慮し、新計画を策定する。
A 委 員	環境学習の推進について、実際に講座をする流れはどのようになっているのか。
事 務 局	学校における環境学習については、校長会等で環境教育ボランティアによる学習メニューや出前講座の活用をお願いしており、学校単位で申し込んでもらっている。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
A 委 員	私も茨木の小学校で講座を実施したが、学校で実施したにもかかわらず、参加したのは一部の放課後クラブの生徒だけで、先生も参加していなかった。
事 務 局	ご指摘の講座は放課後こどもプランかと思う。これは、地域の方や保護者の方が実行委員会を作って実施しており、環境教育ボランティアによる学習メニューの活用については、放課後こどもプランや、子ども会にもPRしている。
A 委 員	環境教育・学習を中心と位置づけるのであれば、もっと活発な活動方法を検討してほしい。
事 務 局	平成26年度からは、できるだけ多くの小学校で環境教育ボランティアによる環境学習講座を実施していきたいと考えている。しかし、環境の大半は目に見えないもので、生活するうえでなくてはならないものでもないため、市民の関心はどうしても低いのが現状である。そのため、環境に対する意識付けや問題提起を、どのようにアピールしていくのが良いかが一番の問題と考えている。
E 委 員	先ほども述べたが、ここ10年の社会情勢の変化により、環境面は、とても過酷な状況になってきている。環境を可視化する等、市民にも少し危機意識をもってもらうような方策も検討してみてはどうか。
事 務 局	ご指摘いただいた点について、今後検討していく。
J 委 員	この審議会で使用しているお茶のペットボトルもリユース瓶にしてはどうか。
事 務 局	リユース瓶は費用等の面から難しいが、それに変わる方法を検討する。
K 委 員	私が勤めているスーパーでは、毎年小学生の職場体験の受入をしている。その中で地産地消や生ごみの回収といった、スーパーで実施しているエコの取り組みについても児童に教えている。職場体験はその

